



ごうちゃんねる (GO-CHANNEL)

2023/03/11

## あっさり黙示録 #56

### 第二第三のハレルヤー地上再臨のカウントダウン

#### 黙示録 19 章

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏



お元気ですか。高原剛一郎です。今日は**あっさり黙示録** 56 回目です。  
今 キリストが地上再臨する直前に天国で起こる、4 回のハレルヤコーラスについて解説しています。

ハレルヤという言葉は色んな J-POP なんかに使われてますが、これは “主をほめよ。神様をほめたたえます” という意味のヘブライ語です。

聖書全体では 28 回、旧約聖書に 24 回、新約聖書に 4 回出て来ます。

旧約聖書の 24 回は全部、**詩篇**に登場するんですね。

詩篇の中で、いわば旧約の中で最初に登場するのは**詩篇 104 篇 35 節**です。

**罪人らが地から絶え果て 悪しき者どもが もはやいなくなりますように。  
わがたましいよ 主をほめたたえよ。ハレルヤ。**

これが聖書全体で最初に出て来るハレルヤですが、その中身をよくよく読むと、「絶対悪がこの地上から取り除かれますように」という、絶対正義の実現を願い求める祈りのことばだったんですね。

そのことは、キリストが地上再臨するまで起こらないんです。

キリストが地上再臨する直前に、もう目の前で実現するという段階で、天国で 4 回ハレルヤが出て来ました。1 回目のハレルヤは、**艱難時代前半 3 年半**において世界に君臨する、**世界統一宗教への裁き**を実行される神への賛美でしたね。

今日は 2 回目と 3 回目のハレルヤコーラスを考えます。

#### 黙示録 19 章

**3 もう一度、彼ら（艱難時代に殉教した人たち）は言った。「ハレルヤ。彼女が焼かれる煙は、世々限りなく立ち上る。」**

これが 2 回目。彼らはなぜ「ハレルヤ」と叫んでいるのか。

彼女が焼かれる煙が**世々限りなく立ち上る**からです。

この彼女は前回見た彼女、すなわち**世界統一宗教／大淫婦**ではありません。

反キリスト帝国の首都 **大バビロン**のことです。バビロンという言葉は女性名詞です。**黙示録 18 章**で、彼女という呼び名で何度も何度も登場しましたね。

反キリスト帝国の首都 **大バビロン**は、神の裁きを受けて一日で炎上して煙が立ち上る。この煙はいつまでたっても途切れることがないんですね。

「**彼女が焼かれる煙は、世々限りなく立ち上る**」と書いてあります。

艱難時代の最後の最後のタイミングで、**大バビロン**は滅びて煙が立ち上ります。

この煙は千年王国の間もずっと立ち上がり続けるんです。  
こうして千年王国の間、「神は正義を実行なさる方なのだ」ということの記念として、そしてこのバビロンが、呪われた場所、いつまでも裁きの火が消えない、煙が立ち上る場所として覚えられるんですね。これが**第1のポイント**です。

大バビロンは反キリストのお膝下ですが、天からの裁きでたった一日でダメになる。しかし、大バビロンは滅びても、反キリストが滅びるわけではないんです。大バビロンにいた者たちはみな滅びるのに、なぜ反キリストは生き延びるのか。この裁きを大バビロンが受けている時、彼はそこを留守にしていたんです。

どこに行っていたのか。ハルマゲドンに行っていたんですね。ハルマゲドンはイスラエルのメギド平原です。そこに自分の手下というか、世界中の王たちとその軍隊を招集していたので留守だったんです。その間にバビロンが壊滅した。それで彼は命拾いしますが、Uターンして自分の都に帰ろうにも、もう戻る所がない状態。この瞬間、彼は背水の陣を敷くことになるんですね。

バビロンの崩壊と反キリストの滅亡にはタイムラグがあるんです。反キリストの滅亡は、地上再臨されたキリストによって実行されるんですね。これが**第2のポイント**です。

**第3のポイント**は3つ目のハレルヤコーラスの解説です。  
**4**すると、二十四人の長老たちと四つの生き物はひれ伏して、御座に着いておられる神を礼拝して言った。「アーメン。ハレルヤ。」

アーメンは「その通りです。」「真実です。」これもヘブライ語です。ハレルヤ。これは三回目のハレルヤとしてカウントできます。ここに2種類の登場人物が出て来ました。二十四人の長老たちと四つの生き物。

四つの生き物はセラフィムで、非常に位の高い、神のそば近くで礼拝している御使いたちです。実は御使いにはヒエラルキーというか、位があるんですね。セラフィムは非常に位の高い御使いで、神を礼拝している。礼拝で殉教者の声に合わせるようにして、「殉教者が言った内容はその通り！アーメン！その通り！ハレルヤ」と言ってるんです。

二十四人の長老たちは、艱難時代の前に携挙されたクリスチャンたちです。このことに関しては**あっさり黙示録5章**をやる時に詳しく説明したいのですが、**5章9節**で、二十四人の長老たちは艱難時代の前に携挙されたクリスチャンたちだと分かります。

黙示録は**6章**からが艱難時代の預言で、**5章**は艱難時代の前のことです。艱難時代が始まる前に、世界中から贖われた人たちが天に集合しているのですが、それは教会なんですね。

この教会を表している二十四人の長老たちは、殉教者たちと一緒に声を合わせて「アーメン。ハレルヤ」と言ってるんですね。

ここで、一つ心に留めたいことがあります。

「ハレルヤ」と言っている人たちをみな、ひとまとめにしてるんじゃないんです。「ハレルヤ」と神様を賛美している人たちを2つのグループに分けたんです。艱難時代の間には救われて殉教した人たちと、艱難時代の前に携挙された教会。

結局同じところに行くのに、そして、同じようなほめたたえる言葉を語っているのに、なぜ分けているのか。

この2つは別々のグループであり、別々の取り扱いを受けるんです。

教会は艱難時代を経験しません。その前に携挙されます。なので、艱難時代に救われたクリスチャンとは線引きされて、別枠・別グループで紹介されているんですね。

ところで、携挙の話をする時、しばしばこんな質問をされます。

「携挙はいつなんですか。近いんですか。大体いつぐらいか分かりますか。」

携挙のタイミングについては3つのことが言えます。

①ハッキリ言えることは艱難時代の前。

②いつでも起こり得る。このことを心に留めておく必要がありますね。

この動画を公開している最中でもパン！と携挙される可能性があるということです。

「エゼキエル戦争の前ですか。後ですか。」どちらもあり得ます。

私はエゼキエル戦争の前ではないかなと考えてますが、決めつけることはできません。いつでも起こり得るというのが聖書の見解だからです。

③その日を明確に分かる人はだれもいない。そんなことを言う人たちは危険です。カルトです。距離を置く必要があると思いますね。近いのは間違いないでしょう。しかし、いついつにあると断言できる人はだれもいません。

1つハッキリしていることは、クリスチャンたち／教会は艱難時代をくぐることはない。すなわち、反キリストに遭遇することはないということです。

そして、神が願っておられるのは、恵みの時代である今現在、イエス・キリストを救い主として信じ、救われることです。

あなたはいかがですか。ぜひイエス・キリストを信じて、艱難時代に突入する前に永遠のいのちを頂いてください。

また、艱難時代の前に、皆さんの友人や大切な人たちに聖書の真理を宣べ伝えていく働きに就いていただきたいと思います。

チャンネル登録もお願いします。ではまた、ごうちゃんねるでお会いしましょう。皆さん、お元気でいらしてください。さよなら！

---

☆引用；日本聖書刊行会『聖書 新改訳 2017』いのちのことば社,2017